

環境カウンセラー協会の
活動紹介と課題

山梨環境カウンセラー協会
城野 仁志 氏

山梨環境カウンセラー協会は、環境問題に関する専門知識と豊富な経験を持ち、市民や事業者の環境保全活動に助言（カウンセリング）を行う人材として、環境省の審査を経て登録されています。現在、山梨県では27名のカウンセラーが登録され、それぞれの専門分野で幅広い環境啓発活動を実施しています。また、雨水利用や緑のカーテンなど、身近にできる環境保全の普及にも取り組んでいます。

設立から28年を迎え、今後は若い環境活動家の登録促進と協会活動への参画を進め、次世代につながる体制づくりを強化していきたいと考えています。



珈琲店のイベントから広げる
自然環境の保全･創出の取り組み

かげろう珈琲
市川 広幸 氏

かげろう珈琲では、自然環境の保全･創出を目的に、雑木林や休耕地を活用した活動に取り組んでいます。近年、里山では自然環境の変化や衰えが見られることから、自然に親しみつつ現状と課題を共有することを目的に、お客様のイベント参加や地域の学校との連携による活動を実施しています。野草の復活を目指した整備や、休耕地を活用したビオトープの整備、生きもの観察会などを行い、今後は学校や企業への体験フィールドとしての利活用や、他地域での展開を目指しています。そのため、地元とのつながりの構築や担い手の発掘、土地活用の仕組み作りが課題と考えています。



清潔できれいな
地域社会を目指して

瀧澤 康雄 氏

清潔できれいな地域社会を目指し、行っている活動内容を紹介します。区の役員時には、再生可能エネルギーの拡大を図るため、区民から出資を募り、リサイクルステーションの屋根に太陽光パネルを設置しました。また、保健環境委員として商店街の看板灯や地区防犯灯のLED化を進め、省エネと電気料金の削減に貢献しています。さらに、ごみ減量化･環境美化に向け、分別徹底を図るごみステーションやリサイクルステーションの美化活動を実施し、SNSを活用し、ごみ出しルールの発信も行っています。

今後も甲州環境市民会議活動の継続など、相互協力を強化してまいります。



富士山レンジャーの活動

山梨県立富士山世界遺産センター
藤間 由起 氏

山梨県富士山レンジャーは、2005年に設置された自然保護レンジャーであり、現在5名で活動しています。

来訪者への利用マナーについての普及啓発、不法投棄や不法採取の監視などのパトロール業務などを行い、富士北麓地域の環境保全や自然保護、またその適正利用を推進しています。このほか、富士山の自然の大切さを知ってもらうための自然解説や、環境学習などを行っており、富士山レンジャーならではの現場で得た旬な話題や課題を交えながら伝えています。

富士北麓地域の広大なエリアでの活動のため、ネットワークづくり、情報発信を大切にしています。

きれい甲斐

No.108 MARCH 2026

環境パートナーシップやまなし
事務局●〒400-8501山梨県甲府市丸の内1丁目6-1山梨県自然共生推進課内
TEL.055-223-1634 FAX.055-223-1781 ✉shizen@pref.yamanashi.lg.jp
ホームページ パートナーシップやまなし 検索
発行責任者●企画委員長 黒 田 光 秀

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。
環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムを開催しました

環境パートナーシップやまなしでは2月8日（日）に「第27回やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を（公財）やまなし環境財団と共催で開催しました。当日は60名の方にご参加いただき、午後1時15分から午後4時まで環境保全に向けた取り組みについて活発な情報交換が行われました。

開会挨拶

主催者を代表して、環境パートナーシップやまなしの坂本政彦会長と（公財）やまなし環境財団の齊藤武彦理事長から挨拶がありました。

環境パートナーシップやまなし　坂本　政彦　会長

本フォーラムでは、日々環境保全にご尽力いただいている皆様の、ポスターセッションによる交流を通じて、皆様の思いや知恵を結び合わせ、地域や社会の未来を照らす新たな一歩となることを心より願っております。

今後とも「環境パートナーシップやまなし」の活動を活性化し、希望に満ちた未来を創り上げていくために、皆様とともに歩んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（公財）やまなし環境財団　齊藤　武彦　理事長



このフォーラムは、県内の環境保全に携わる皆様の交流の場として27回目を迎えました。長年にわたる関係は、皆様のご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

当財団は、地域の環境保全活動を支援しており、本日は優れた環境保全活動を実践されてきた個人及び団体に若宮賞を贈呈いたします。受賞者の皆様のこれまでの努力に敬意を表するとともに、今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

若宮賞表彰式

（公財）やまなし環境財団では、県内各地で優れた環境保全活動を継続して行っている団体や個人を「若宮賞」として表彰します。この賞は、県民の皆様の自主的な環境保全活動を大きく育て、その取り組みを広く紹介することを目的に定めたもので、「若宮賞」という名称は、本財団の設立に多大な御協力をいただきました 故 若宮きよの様 のお名前を記念したものです。今回の受賞者･団体をご紹介します。



【雨宮国広 氏】 自然との共生を軸に体験型環境教育を継続されています。
【かげろう珈琲　市川広幸 氏】 里山再生と地域に根ざした環境教育に取り組まれています。
【瀧澤康雄 氏】 環境美化や啓発活動を進め、脱炭素の実現に取り組まれています。
【生活協同組合ユーコープやまなし県本部】 資源回収や啓発活動を通じ持続可能な社会づくりに尽力されています。
【大菩薩山の会】 大菩薩嶺での環境美化や保全活動に継続して取り組まれています。
【山祇ジビエ】 駆除された害獣をジビエに活用し、命と環境の大切さを発信されています。

「ポスターセッション」が開催されました

県内で環境保全に取り組む団体・企業・学生・行政が日頃の環境活動をまとめて作成したポスターの発表を行い、その後、参加者と交流するポスターセッションを実施しました。

（公財）キープ協会の岡野由美様にコーディネーターを務めていただき、交流の時間では、発表者と参加者相互の活発な情報交換が行われました。

発表者として、助成金交付団体、若宮賞受賞者、企業・団体、高校生、行政の12団体の皆様を、発表順にご紹介します。（展示のみ：NPO法人なかまフォールドうじゅうの森）



農地における圃場型ビオトープの役割と環境教育の可能性を探る2025

どじょっかわビオトープクラブ
鶴岡 舞子 氏

どじょっかわビオトープクラブでは、甲州市塩山「塩ノ山」の北側麓にある畑や付属する用水路にどんな生き物がいるのか、フィールドが持っているポテンシャルを知るための基礎的な調査を、専門家と東海大学付属甲府高等学校自然科学同好会の協力を得て、地域住民や愛好家と共に動き出し、様々な活動を実施しています。

本年度は、畑を含む圃場型ビオトープの役割について継続的に見る仕組みを構築しました。また、生き物同士のつながり、人間との関わりなどを楽しみながら学ぶ仲間を増やす活動も行いました。次年度はビオトープの整備を中心に観察も並行して実施予定です。



2025年度「環境」の取り組み紹介

生活協同組合ユーコープやまなし県本部
有馬 淳一 氏

ユーコープでは、ペットボトルキャップのリサイクルに取り組み、おうちCO-OPと全店で、組合員からキャップを回収して再資源化を進めています。リサイクルで得られた収益は、東南アジアなどの子どもたちのワクチン接種費用として、「認定NPO法人　世界の子どもにワクチンを 日本委員会」へ全額寄付しています。2016年の開始から9年間で、ポリオワクチンに換算して、約20万人分を届けることができました。

また、ユーコープのホームページや新聞で紹介されたことで取り組みの輪が地域にも広がり、学校などの団体・企業からの寄贈も増えています。



山梨植林プロジェクトえん樹むすび植樹会2025@甲府 開催報告

一般社団法人 SOCIAL TEMPLE
嶋田 尚教 氏

ソーシャルテンプルは、「共働-ゆるやかで主体的に参加できる、やさしい地域社会-」をビジョンに、お寺の住職を中心に多様な地域活動を行っています。こども食堂「寺GO飯」や、中高生の居場所「放課後cafélab」など、ゆるやかに、主体的に関われる場を作っています。植林プロジェクト「えん樹むすび」は、生命観や自然観、さらに仏教の教えである「縁起-すべての物事はつながっている」という摂理を学ぶ場となるとともに、植林体験を通じて自然再生も行うプロジェクトです。

来年度以降も「森づくり」を継続し、さらにプロジェクトを広め、伝える活動にも注力する予定です。



山で過ごそう　山で暮らそう

NPO法人 天空の里ひらりん
上鶴 恵子 氏

天空の里ひらりんは、富士川町平林地域で自然や人とのつながりを通じて心と体の健康と、次世代の生きる力を育み、持続可能な中山間地域の暮らしに貢献する活動を行っています。主な取組である「MINORIプロジェクト」では、参加者と共に棚田米の耕作や、皮むき間伐による人工林の手入れなどの自然体験に取り組み、地域の自然環境の保全と自然保護の視点を取り入れ、次世代へつなぐ持続可能な仕組みの構築を目指しています。

今後は取組の発展に加え、水資源や森林資源の有効活用を検討し、住民主体の持続可能な集落運営の実現を推進していきます。



甘利山さわら池の調査

山梨県立韮崎高等学校　生物研究部
荻原 佑和 氏　有賀 翔 氏
新海 陽太 氏

県立韮崎高等学校生物研究部では、甘利山にあるさわら池で独自の生態系が形成されているのではないかという仮説の基、調査を行いました。生物採取、関係者への聞き取り、資料調査などを行った結果、池で陸地化現象が起きているとの考察に至りました。さらに水深や泥の状況を調査したところ、堆積において水深が浅くなる可能性が考えられるなど、さらに詳細な調査と具体的な対策が必要との考察に至りました。

陸地化の抑制など現状を維持するのか、自然放任するのか、倫理的なものが問われているものと考え、今後は異なる調査や詳細な調査を行う必要があると考えています。



八ヶ岳森の学校　プロジェクト

八ヶ岳猪鹿鳥
佐藤 陽介 氏

八ヶ岳猪鹿鳥では、自然豊かな八ヶ岳清里高原エリアを拠点に、八ヶ岳森の学校プロジェクトとして、自然資源を活かした体験と保全活動を実施しています。センサーカメラを用いた野生動物調査では、基礎データの収集と蓄積を進めており、これまでにアライグマやムササビの清里エリアへの侵出を初めて確認しました。
また、シカ角拾い、森のゴミ拾い、バードウォッチングなどの自然体験・保全活動を通じ、地域資源の活用と環境保全に取り組んでいます。活動継続のため、資金調達の新たな展開も模索し、さらなる広がりを持たせてまいります。



ごみとプラスチックから考える環境保全

一般社団法人山梨県消費者市民社会推進協議会
本田 万壽男 氏

山梨県消費者市民社会推進協議会では、ごみとプラスチックから考える環境保全に取り組み、県内の小学中学生を対象に特別授業（ESD）を行っています。

特別授業（ESD）は、児童や生徒が日常生活の中で環境保全を意識するきっかけをつくることや、ごみの分別、プラスチック削減、再利用に向けた行動変容の促進、家庭において環境問題を話し合う機会の創出を目的としており、実際の分別方法やリサイクルの流れなどを学習します。県内の環境意識向上などにより、地域全体の行動変容が進むことを期待しています。



山林火災における消化剤について

山梨県立韮崎高等学校　物理化学部
市川 萌愛 氏

県立韮崎高等学校物理化学部では、相次ぐ山林火災の長時間化を受け、「水をかけると大きな被害が発生する施設」で消火に窒素ガスが利用されていることに着目し、窒素は自然由来で人体への害も少なく、山林火災の消火にも応用できないかと考え、消火剤に関する研究を行う事としました。

実証実験では、窒素をシャボン玉に封入し、火を包み込むことで消火する方法に一定の有効性が確認されました。今後は安価な窒素の確保や大量のシャボン玉を生成する装置の制作を進めるとともに、SNS等で情報発信を行い、協力企業等を探していきたいと考えています。

